

○令和3年度神奈川県(小中高共通)60分

主体的・対話的で深い学びの論の展開(例)

おすすめ

資料参照

神奈川県では、児童や学校等の実態に応じ、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、必要な資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいます。

このことを踏まえ、あなたは、ICT活用の利点を生かした授業実践にどのように取り組みますか。ICTを活用する意義やねらいとともに、あなたの考えを600字以上825字以下で具体的に述べなさい。

必要な資質・能力とは、確かな学力や体力、道徳性等を身に付けることであり、社会の大きな変動に伴い、保護者や国民の間に学校に対して、こうした資質・能力を確実に育成する質の高い教育を求める声が高まっている。

PISA学力調査から、日本の生徒は思考力や判断力、表現力やICTの活用などに課題があることが明らかになった。私はICTを活用し情報活用能力を高めるとともに主体的・対話的で深い学びの授業を通して確かな学力を身に付けさせ必要な資質・能力を育むため以下の取組を行う。

○情報活用能力を高め、確かな学力を育む取組

児童は誰もが探求心をもっている。探求心は新たな知識を開花させ、学びに向かう力へ導く。学力の基盤となる情報活用能力の向上を確かな学力の育成に位置づけ主体的・対話的で深い学びの授業を展開していく。

「神奈川県の魅力再発見」をテーマとして社会科の授業で行う。まず、5～6人のグループをつくり、それぞれ伝統工芸、農産物、交通、史跡文化財等について学校図書館、パソコン等を活用して調べさせる。調べ学習は探求心を引き出す。次に持ち寄った情報の取捨選択を話し合わせ、1グループ5分間のプレゼンテーション資料をつくり、発表させる。情報の整理は思考力と判断力を養い、発表活動は表現力を養う。生まれ育った地域を学習することで郷土愛を育むことも期待できる。

ICTを活用した個人やグループによる調べ学習、意見交換、発表活動は個別最適な学習や協働的な学習の実現で有効な指導法である。こうした学習を通して知識・技能だけではなく思考力、判断力、表現力、課題発見・問題解決能力等確かな学力を向上させていく。(704字)

情報活用能力⇒課題発見・問題解決能力を支える基盤(文科省) 思考力・判断力・表現力

○さいたま市 2020 800字45分

資料参照

【問題】さいたま市では「人生100年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』」の推進を掲げ、やりぬく力で「真の学力」を育成することを進めています。あなたはこのことを踏まえ、教師としてどのように取り組んでいきますか。具体的に述べなさい。

技術革新やグローバル化が進む現代社会で豊かに生きるためには、「真の学力」として、やり抜く力を基盤に、思考力・判断力・表現力や課題発見・問題解決能力を育む必要があると考える。やり抜く力とは、継続的に粘り強く他者と協働して物事を遂行する力である。私は思考力・判断力・表現力を育む活動と課題解決力を育む授業づくりに取り組む。以下具体的に述べる。

1 思考力・判断力・表現力を育む活動

互いの違いやよさを認め合える学級では、児童が自分の存在感を感じ、意見を述べやすくなる。私は全教育活動を通して、安心感のある学級づくりに努める。週に1回、朝の会を利用し、学校生活における改善点について「ミニ討論会」を設定する。考えをまとめることで、児童の思考力を育む。また4人程度の小グループにおいて、自分の考えを相手に伝えることで、判断力や表現力を育むことができる。このように継続的に児童の思考力・判断力・表現力を育む。

1 課題解決力を育む授業

私は考えるプロセスを重視した問題解決的な学習を行う。社会科では、資料提示の仕方を工夫することで、児童の疑問を引き出し、学習問題を立てる。例えば平安時代から鎌倉時代、武士の立場が変わることに気づかせるため、2つの絵巻物を提示し、比較することで「武士はどのように力を付けたのか」という児童の疑問を引き出す。その疑問を学習問題として設定し、単元を通して話し合い、解決しながら授業を進める。このように継続的に問題解決の過程を重視することで、児童の課題解決力を育成することができる。

以上のように、児童が継続的に粘り強く、他者と協働して物事をやり遂げる力を育む。そのため「教師力」パワーアップ講座に参加するなど、自らが常に学び続け、児童の「真の学力」の育成に全力を注ぐ覚悟である。